

専攻教員（兼担はのぞく）

開発・生産流通工学
経営財務・経営管理



井上光太郎・教授

専門分野は、経営財務と企業統治。特に、企業のような投資行動や財務行動が企業価値を増大させるか、どのような企業統治体制が資本調達コストを引き下げ、市場における有利な地位を築く上で有効かを分析している。フォーカスしているトピックは、企業のM&A、リストラクチャリング、資本政策、成長投資戦略など。特に市場と経済活動のボーターレス化を踏まえて国際データを用い、文化差異、法とファイナンス、行動ファイナンスなどの研究視点から、実証分析を行っている。研究室として企業経営および法制度上の課題への解決策の提示を研究目的としている。そのため問題の本質をデータから洗い出すことを重視する。この研究目的を共に達成していくため、データを見る目と共に、実社会における経済活動や制度への強い関心を持つ学生を幅広く歓迎する。

開発・生産流通工学
マーケティング、流通



鍾 淑玲・准教授

専門分野はマーケティングと流通。私自身は、特にアジアにおける華人・華僑系企業のマーケティング戦略、流通の近代化、小売の国際化、の3つの分野の研究に関心があります。

研究室では、マーケティングと流通の理論と応用全般を研究対象としています。例えば、マーケティングのブランド戦略、製品、価格、流通チャネル、プロモーション戦略を掘り下げた理論研究、または、日本や海外市場における企業のマーケティング戦略、およびその比較研究。流通においては、小売業のイノベーションや国際化などの研究。

学生には自ら問題意識を持って、テーマの選定をしてもらいます。国際化社会に備えて、柔軟性と国際観が豊かな人材を育成することを目指しています。

開発・生産流通工学
生産管理、品質管理、
ロジスティクス



圓川隆夫・教授

専門分野は、生産と品質のマネジメント。特に生産ではサプライチェーンマネジメント、品質では顧客満足及び新商品開発の観点から、それぞれのパフォーマンスが企業の経営成果にどのように結びつくかのメカニズム、そしてその国際比較を、独自のデータベースを構築しながら進めています。研究室の教育方針は、“着眼大局”を旨とし、常に大局的な観点からの問題認識、問題発見(蛸壺に陥らない)と、経営工学の強みとして統計的、IE的な問題へのアプローチの仕方を強調しています。

開発・生産流通工学
生産管理、
ロジスティクス



鈴木定省・准教授

専門分野は生産管理とロジスティクス。生産やロジスティクスの範囲は多岐にわたります。研究室では、顧客にとって有用な製品・サービスを生み出すための活動として、開発から生産・物流・販売・廃棄/リサイクルといったサプライチェーンに関する一連のオペレーション(業務)を対象とした研究を行っています。

各自の興味関心を尊重して研究対象を設定し、既往研究のサーベイ等を通じて、問題意識を明確化し、徐々に研究テーマを絞り込んでいく形で研究を進めていきたいと考えています。事象のモデル化や統計的手法といった経営工学的アプローチの強みを活かし、問題発見から問題解決に至る能力を研究室生活を通して共に高めつつ、充実した学生生活を過ごしましょう。

開発・生産流通工学
人間工学、安全工学、
認知工学



伊藤謙治・教授

伊藤研の目標として、現実の社会や組織で役に立つ、問題オリエンティッドな方法論・技術を創出することを目指しています。現在我々がやっている研究は、医療、あるいは鉄道の分野を対象としていることが多いのですが、その適用対象はどこでも構いません。また、研究の多くは、ヒューマン・エラー解析を含んだリスク管理の問題であったり、ユーザビリティの向上を目指したインタフェース設計・評価の問題、身障者向けのインタフェースの開発、あるいは認知作業を詳細に分析することによるシステム・製品設計への応用などですが、何をやっても構いません。

大事なことは、自分の興味を持っている分野で、社会に貢献しているという自覚

(自信)をもって、自分が主体となって現実の難しい問題にどんどんチャレンジしていくことだと思っています。

開発・生産流通工学
人間工学、認知工学



青木洋貴・准教授

現場をしっかりと見て「観察」し、そこから得られてデータに基づきものを言うというIE (Industrial Engineering) 的な考え方を大事にしなが、ひとの活動に関連する問題を扱っています。研究室にはひとを測るためのもの珍しい装置があります。(もちろんこれらを必ず使えというわけではありません) また皆さんは、これまでの学習・経験の中で様々な知識を持っているでしょう。これらのすべての持っている貴重な「資源」を、皆さんの才能・センスでフルに活用して、皆さん自身の問題意識に基づき、オモシロイこと・変わったことを一緒に考え形にしていきたいと思います。研究室ですべての活動に全力で取り組むことを通じて、またときには教員との知的バトルを通して、どこでも生きていけるようなスキルを身につけましょう。

開発・生産流通工学
感情と技術・経営、
加齢と技術、人間工
学



梅室博行・准教授

「人に感情を引きおこす力のある」という概念を私たちは“affective”と呼んでいます。わくわくする、持っていることが誇らしい技術は affective technology、家族や恋人と心をつないでくれるコミュニケーションは affective communication と呼ぶことができます。またそんな製品やサービスを創り出すためには、それを創る組織が顧客や従業員の感情をよく理解する affective management を行なうことが必要です。

私たちの研究室は affective という概念をさまざまなレベルで考え、技術を提案し、マネジメントを考え、世の中を affective にすることを目指しています。

研究室は多様性、すなわち様々なバックグラウンド、様々な感性、様々な夢を持った人が集まる集団を目指しています。

財務経営工学
応用統計、品質管
理、信頼性

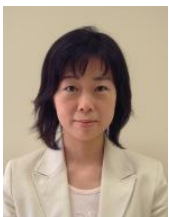


宮川雅巳・教授

専門分野は応用統計学で、特に多変量解析、実験計画法、生存時間解析について理論と応用の両面から研究を行っています。統計学はたいへん歴史のある学問で、19世紀から実質的に使われ始め、その後は適用範囲の広がりとともに新しいモデルや手法が次々と開発されています。今日の高度情報化社会においてその傾向は一層顕著です。

統計学の研究には基礎数学と確率・統計の専門知識が不可欠です。大学院生には自らの動機付けのもとにテーマを選定し遂行してもらいます。修士課程のゴールは、既存研究の調査方法、テーマの絞込み方、結論の導き方といった研究の進め方を習得することにあると考えています。

財務経営工学
会計情報論、企業評価



永田京子・准教授

永田研究室では、大きく①経営者がどのような判断や戦略の下で会計情報を作成しているのか、②そうして作成された会計情報が市場における株価形成にどのような影響を及ぼすのか、という2つのテーマに関する研究を行っています。経営者や投資家の視点に立って深い分析を行うためには、会計やファイナンスの知識だけでなく、日頃から現実には起きている様々な経済事象に関心を持ち、「なぜ？」と自分なりに問題意識を持って考えることが大切です。大きな可能性に満ち溢れる修士課程の2年間を密度の濃い時間にしましょう。

経営数理・情報
数値的最適化、OR、
金融工学

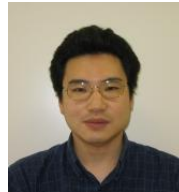


水野眞治・教授

水野研究室では、経営工学上の様々な問題を解決するために、問題の発見・モデル化と数理的アプローチによるモデルの解析あるいは解法について主に研究しています。対象とする問題には、最適化問題、スケジューリング問題、ファイナンス問題、意思決定問題などがあります。

これらの問題をオペレーションズ・リサーチ、最適化、金融工学、統計科学などの道具を使い解決しています。研究室には、目的意識を持ち、やる気のある学生が集まっています。学生生活をエンジョイしながらも、やるべきときにはきちんとしてやるのが大切であると常日頃より思っています。

経営数理・情報
OR、数理計画法、
データマイニング



中田和秀・准教授

本研究室では、オペレーションズ・リサーチやデータマイニングについて研究をしています。計算機性能の向上や最適化アルゴリズムの発展により、現在では相当大規模な数理モデルの解析が可能となってきました。しかしながら、より精密な解析を行いたいという欲求は尽きることはありません。それらを実現するため、革新的な最適化法の発見やソフトウェアの開発に力を入れています。

研究室の学生には、数理的な思考力を鍛えることにより、物事の抽象化や論理的な表現法を身に付けてもらいたいと思っています。また、根本的な動作原理を理解した上で、計算機を使いこなせるような人材を育てたいと考えています。

経営数理・情報
システム理論、情
報システム学



飯島淳一・教授

専門分野は、情報システム学とシステム論。特に、ビジネスアーキテクチャと統合した情報システム開発方法論、モバイルコマース、ビジネスにおける有効なIT投資のあり方、などに関心があります。人生哲学は、“A rolling stone gathers no moss.”です。

また、研究室での教育方針としては、現代数学や記号論理学をゼミを通じて身につけることにより、形式化の能力を養い、ゼミ、コンパなどにおける論議を通じて、コミュニケーション能力を養い、さらに、研究室生活全般を通じて、「あたり前のことが、あたり前にできるひと」になっていただきたいと考えています。

経営数理・情報
組織論, 戦略論, 知
識・情報システム



妹尾 大・准教授

研究分野は、経営組織論、経営戦略論、知識・情報システムです。個人と組織の動的プロセスについての理論構築を目指しています。具体的な研究プロジェクトは、知識創造支援ワークスタイルとワークプレイス（クリエイティブオフィス）の分析、知識継承リーダーシップの調査、顧客コミュニティ戦略の調査、ナレッジマネジメントツールの評価手法開発、などです。

研究室活動の目標は、経営基礎知識の習得、課題発見能力の向上、読解力と表現力の向上、多様な視点の獲得、共同作業の体験、研究方法論の習得、の6点です。研究室メンバーが重んじる価値は、一手を抜かず一生懸命やる、勇気をもって挑戦する、互いに尊重しあう、の3点です。

技術構造分析
科学技術社会（STS）論, 科学/技術史



中島秀人・教授

私の個人の研究は、17世紀の科学技術史、具体的にはロバート・フック（英国の科学者）の歴史的 position づけの解明などを対象としています。

研究室では、科学技術史に限らず、社会の中での科学技術というより幅広い観点から、院生とともに研究活動を行っています。現在在籍する院生たちは、イタリアの女性科学者、日本の理科教育史、マイケル・ボラニーの自然科学研究といったものを研究テーマとしています。多様な関心を持つ人々が集い、切磋琢磨できる楽しい研究室づくりを心がけています。

技術構造分析
科学史, 化学史, 比較科学史, 環境科学史, 科学技術社会論



梶 雅範・准教授

本研究室では、科学史を研究対象としています。科学史は、自然科学が歴史的にどのようなようにつくられてきたかを明らかにしようとする学問分野です。自然科学の学説的な内容の発展・展開を調べるだけでなく、自然科学やその研究者（科学者）がその時代の社会とどのような関係をもっていたのかを解明することを通して、現代社会における自然科学のあり方を考えることを目指します。

私自身は、ロシアや日本の19世紀・20世紀の化学という分野の歴史を研究しています。現代社会における科学者のあり方、化学物質と現代社会、環境問題などにも関心があります。現代における科学のあり方について、考えたい・調べたい・議論したいという学生を歓迎します。